

棚田に吹く風

2024
夏
Summer
季刊

2 特集
棚田のゆるキャラ

5 フォトエッセイ
棚田の愉しみ

6 棚田・里山からのたより
阿讃山脈の小さな山里で
香川県木田郡三木町小蓑地区

8 コラム
棚ガール
生きもの屋の里山考

9 棚田博士は今日も行く
霞ヶ城(二本松城)に隣接する棚田
福島県二本松市郭内・二伊滝

12 読者のひろば

14 棚田俳壇
つ・ぶ・や・き

15 Project Report





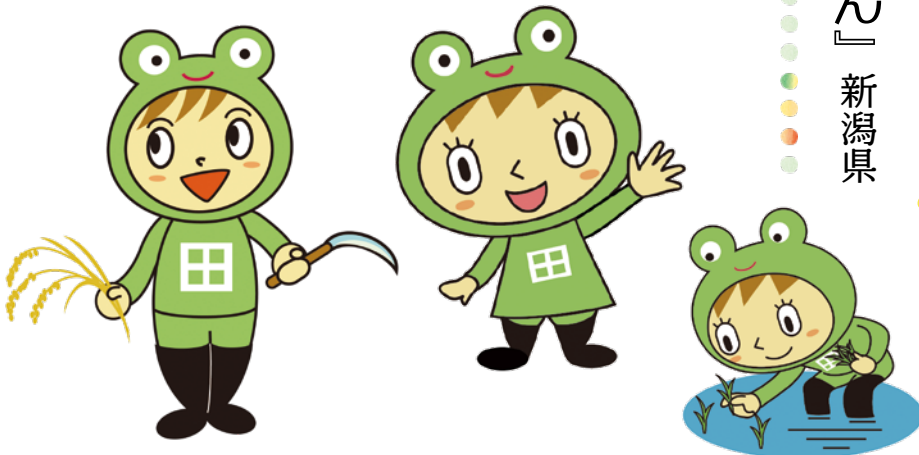
新潟県農地部のインスタ

新潟県は棚田面積が日本一。「棚田みらい応援団」は、企業や団体が各地の棚田保全活動に参加できるように協働をマッチングする仕組みです。

その応援団のマスコットキャラクターが「棚田みらいちゃん」。誕生は約10年前ですが、自称20歳!? 永遠の20歳かも。

蛙の格好で、田植えをしたり稲を刈ったりおにぎりを食べたり。たまにはぬいぐるみとして県農地部のインスタに現れます。棚田みらい応援団が活動する際には、グッズ（手拭いやうちわ）になって一緒に棚田保全活動のPRに努めています。

『棚田みらいちゃん』新潟県



棚田の ゆるキャラ

2000年初頭から登場し、2008年には新語・流行語大賞にもノミネートされた「ゆるキャラ」は、今や地域おこしの定番となりました。棚田で活躍する「ゆるキャラ」はいるのか?と編集部興味本位で始まった企画です。愛らしい棚田の妖精たちをお楽しみ下さい。





『ふくだん様』 福島県



今年の春に生まれた、「ふくしまの棚田」の神様。誕生後の最初のイベント登場がこの「田んぼの学校」。湯気が出ているようなホヤホヤの存在です。

みんなに「福」をとどけるため、黄金にきらめく稲穂色の雲に乗って、棚田で行われるイベントにこっそりとあらわれるのだとか。棚田地域をにこにことして優しく見守り、「だんだんよくなくる」と物事を良い方向に導いてくれるそうです。

昨年実施された「ふくしまの棚田」推し活スタンプラリーが今年も7月から予定されています。そこがきつと次の登場の場になる予感!?

今のところまだ2次元なのですが、「着ぐるみはいないの?」と尋ねられることもあるとか。頑張って3次元に飛躍してほしいですね!

『おさよん』 兵庫県佐用町

平成23年(2011年)に誕生。頭は町花・ひまわり、体は棚田、身につけているマフラーは町内を流れる清流千種川、手に持つステイックは佐用町のきれいな星空をイメージ。マフラーに流れ星と一緒に描かれた「034」の数字は、もちろん「おさよん」を表していて、本人もお気に入りポイントです。

毎年夏に開催される「南光ひまわり祭り」など、佐用町のイベントに参加して、ひまわりのような明るい笑顔で観光PRのため活躍しています。

佐用町には「日本の棚田百選」に選ばれた乙大木谷の棚田がありますが、かつて実施されていたオーナー制度は終了し、隣接する田和地区で「棚田交流人」が小規模に続いているのみ。人々が集う棚田で笑顔を振りまくおさよんも見たいものです...



『とほっぴ』 福岡県東峰村

テレビ番組の一企画から生まれ、後に村の公認キャラクターになりました。地元・岩屋神社のご神体「宝珠石」の力によって、村の清流に棲む「ホタル」、名産「小石原焼」、「棚田」の三つが一つになった妖精。2017年12月29日が誕生日。田舎育ちで少し気の弱いところがありますが、優しく芯の強い頑張り屋さん。特技は昼寝（ホタルなので昼間はちょっと眠いのです……）。

ご当地キャラクターのイベント等に参加することもありますが、日ごろは「村の顔」として、X（旧ツイッター）などで四季折々の村の様子や村の魅力を発信しています。フォローしてみてね！ ふるさと納税の返礼品としてぬいぐるみも登場しています！



『ゆづたん』 鹿児島県湧水町

2015年3月22日（町政施行10周年の日）生まれ。公募に応じた約450点から選ばれたマスコットキャラクター。町のきれいな水のしずくをイメージした体に、カラフルなお腹は四季折々の棚田を表現しています。背中には漢字の「水」の形をした羽が生えています。飛ぶことはできないとか。年齢1132歳（113211いみず）。春の桜を見ながら湧水の焼酎を飲むのが好きという、なかなか呑兵衛のようです。

毎年11月上旬に開催される「湧水町高原フェスタ」には必ず出席。ほかに町内外のイベントに参加したり、大好きな丸池湧水にもよく出没するよう。町の魅力とともに、棚田米や湧水米、湧水茶なども広くアピールしようと、SNSだけでなく自ら動いて（つまり着ぐるみ！）活動しています。

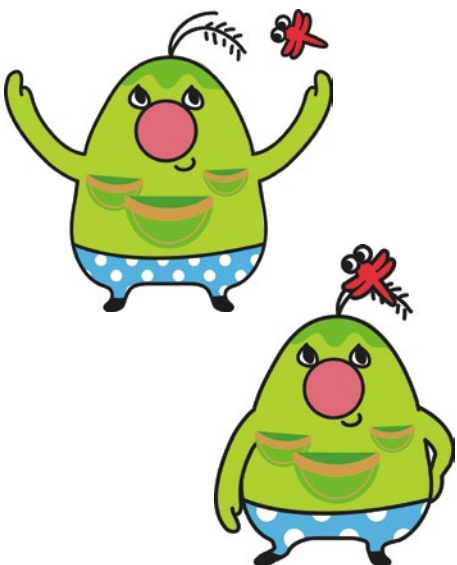


『ダンダン』 熊本県

2007年に誕生した棚田マスコットキャラクター。くまもとの水と土の守り神のようなもの。穏やかで優しい性格。棚田の稲穂の影から「どっこいしょ」と現れます。「ダダダーン、くまもとの農産物はどうして、こんなにおいしんでしょう。分かるかな？ ダンダン」など、末尾に「ダンダン」をつけるのが口癖だそうです。ダンダンの頭上を飛んでいるのは、相棒のトントーン。

当初は主に県が実施する啓発資料やイベントに登場していましたが、現在は地域活動団体のイベントのチラシや幟旗などにも登場。

いつもは県のむらづくり課公式X（旧ツイッター）やインスタのアイコンに居ます。





フォトエッセイ 棚田の

愉しみ

写真・文
玉井 質

大阪府唯一の村、千早赤阪村には日本の棚田百選に選ばれた「下赤阪の棚田」があります。一度訪れて、その美しさにいっぺんにファンになりました。電車2本と地下鉄、バスを乗り継いで片道約2時間かけ10年ほど通いました。この地は南北朝時代の楠木正成生誕の地で知られ資料館もあり歴史を感じさせてくれる棚田です。広大な棚田群の一面を高齢の農家から耕作を引き継いで欲しいと頼まれ、地域の定年まちかの人たち12世帯とサポーターたちで「棚田を守りたい」を立ち上げ棚田耕作を引き受けてきました。毎年12月末には近所の人たちも参加した餅つき大会、夜には一年の労をねぎらいます。これが何よりの愉しみです。

玉井 質 たまい ただし



1941 香川県生まれ
日本リアリズム写真集団所属・大阪府在住

■個展

- 2005 「私の大阪城」ギャラリー福寿草
- 2006 「私の大阪城」メディアラボNEXT豊中店
- 2007 「悠久の大地―雲南」メディアラボNEXT豊中店
- 2007 「悠久の大地―雲南」ギャラリー福寿草
- 2010 JRP連続展「悠久の大地―雲南」喫茶トリービビット
- 2011 JRP連続展「悠久の大地―雲南II」喫茶トリービビット
- 2015 JRP連続展「私の大阪城」茶白山画廊
- 2023 「慰霊の時 ヒロシマ」アート・スペース・わ

■写真集

- 『私景 大阪城マンダラ』 2018 (株)日本機関紙出版センター
- 『棚田の愉しみ』 2021 うめだ印刷(株)
- 『東チベット高原に行く』 2022 うめだ印刷(株)
- 『慰霊の時 ヒロシマ』 2023 うめだ印刷(株)



棚田・里山
からの
たより



阿讃山脈の小さな山里で 地域ぐるみで取り組む棚田の保全

昭和の面影を残す のどかな農村

小養地区は、三木町の最南端、徳島県との県境近くの小さな山里で標高は300〜400mの盆地です。気温も平地部より4〜5度は低く、山間地特有の清らかな渓流水と山から吹き下ろす爽やかな芝風は何物にも代えがたい貴重な財産です。

特に地区の南部に位置する「虹の滝」は讃岐百景に指定されるなど風光明媚な憩いの場で、四季を通して移り変わる風景が七色に変化する（春の新緑、夏の木漏れ日、秋の紅葉、冬の雪景色）などから町内外から多くの人が訪れる癒しのスポットです。

また、地区住民の気さくな人柄と親切でおせっかいなおもてなしが古き良き時代を思い出させます。

時代とともに変化する 農村社会と経済

昭和40年代頃の高度経済成長期

香川県木田郡三木町小養地区

は、各農家が米や野菜等の栽培に対する意欲が盛んで、農地や水を大切にし、保全・管理に努めたことから豊かで賑わいのある農村を形成していました。

しかしながら、社会経済の変化に伴い農業用機械や生産資材の高騰、さらには農産物価格の低迷により農家の農業経営が厳しくなってきました。

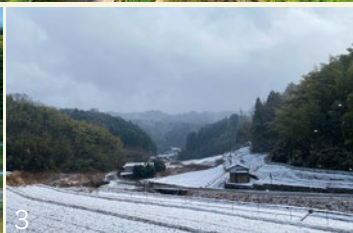
山間部は、文明開化が遅く、過疎化がいち早くやってきました。

小養地区も例外にもれず、農業では生計が立たず離農し地区外へ移転、また農地を守ることが出来なく所有地を耕作放棄地にするなどで農村の存続が危ぶまれていました。

新しい農業構造の確立に挑戦するための決断

このような折、行政から地区の農家・非農家全員が参加する集落営農組織の設立を提案されました。

行政と集落の代表が何度も何度も話し合い、平成16年6月に地区の



1：小養の棚田全景／2：春の小養棚田／3：冬の小養棚田／4：田植え風景

殆どである50戸が構成員となった集落宮農組織「山南宮農組合」を設立しました。この決断は地区にとって未知への挑戦でありました。

みんなで守りつなぐ豊かな農村

現在の組織は9部会からなり、老いも若いも男性も女性も組合員全員が何れかの部会に加入して、棚田を含めた農地や水、伝統文化の存続に向け活動するものです。

具体的には、籾の乾燥・調整を行うライスセンター部会、耕起・草刈り・稲刈りを行うオペレータ部会、米や野菜・加工品の販売を行う産直部会、地元産の食材を提供する農村レストラン部会、猪を捕獲して精肉をする猪部会などのほか、最近では古民家を利用した農家民宿や、空中防除や施肥を行うドローン部会と多種多様な取り組みを展開しています。

しかしながら、組織化は整ったものの、高齢化等により地区内の労働力のみでは十分な活動が出来なくなるのが想定されるため、当組合の活動に協力して頂ける人材が必要と考えていました。

潤いと賑わいのある風光明媚な「棚田のある農村」へ

このような折、令和4年3月に「小養の棚田」が農林水産大臣より「つなぐ棚田遺産」に認定して頂きました。このことは、全住民がより一層ふるさとの棚田を守り次世代へつなきたいと言う思いが強くなったことや、地域外から応援してくれる人たちが増え、大変ありがたいです。

これらの多くの方々のご協力を得て潤いと賑わいのある「棚田のある農村」を守り後世へつないでいきたいと思っています。

(株式会社山南宮農組合代表 阿部泰人)



1：農村レストラン部会／2：イベント部会／3：オペレータ部会

棚田へのアクセス

【公共交通】 琴電長尾線・学園通り駅前よりタクシー利用で25分

【自動車】 高松自動車道・さぬき三木ICから県道38、42号を南下して小養地区に至る。ICから16km

お問い合わせ

<https://www.komino.net/>

香川県 三木町



1：棚田風景／2：こどもたち／3：夏祭り／4：農村レストラン／5：農村カフェオープニングセレモニー

棚 ガール Tana Girl

棚田の虜になった女子、通称「棚ガール」

そんな女性を紹介するコーナーです!!

長野県上田市 稲倉の棚田

渡辺 洋美

稲倉の棚田は「跳めるだけじゃない
カカワレル棚田」です。私がカカワッテ
いる稲倉の棚田は、今年の秋に全国棚
田サミットが開催される予定地となっ
ています。昨年、初めて棚田サミット〔和
歌山県〕へ娘〔9歳〕と参加させていた
だいた時、皆さんの声を聞き、同じ問題
や課題がある事を知り、共有できた事
を嬉しく思いました。

私は、保全委員として田植えや稲刈
り、様々なイベントのお手伝い、子供達
と一緒に棚田でネイチャーゲームや焚
き火、ピオトープでの生物観察、農作業
などの体験学習の活動をしています。

稲倉の棚田保全委員長の久保田さ



ん、保全委員のメンバー、地域おこし協力隊、カカワレル棚田を支えてくださる皆さんの力は
本当に偉大です。そんな皆さんのパワーが子供たちの未来をつないでいます。私
の娘は保全委員の皆さんが大好きです。そして棚田を愛しています。きっとこの
想いは未来の棚田につながっていくと思います。1人でも多くの子供達が稲倉の
棚田とカカワリ、心の財産を増やしてくれたらいいなと思っています。子供達が
大人になってまた稲倉の棚田にカカワッテくれることを願って活動しています。



生きものの屋の 里山考

文・写真 (株)環境指標生物 桑原 健

里山に飛ぶぬいぐるみ

夏から秋にかけて里山の用水路脇など
でよく目にするツリフネソウの花には、
ある昆虫がよく訪れます。私の推し虫、
マルハナバチの仲間です。地域によって様々
な種類がみられますが、棚田を擁するような里山で夏に最もよく
みられるのはトラマルハナバチでしょう。トラを思わせる黄色と黒
のカラーリングでモコモコした毛が生えていて、まるでぬいぐるみ
のようです。

マルハナバチは運動に適した体温を一定に保てるため、なんと5℃
程度という冬のような低温でも活動できます。このため、朝早くか
ら夕方遅くまで飛び回っています。また、食べ頃の花の位置などを学
習して、非常に効率よく沢山の花を訪れることができます。さらに、
人を刺すことはめったになく、ヒトの指にとまったりもします。働き
者で知性を持った平和主義者、こんなヒトに私はなりたいたい。

しかし、近年行われたマルハナバチ国勢調査の結果では、トラマルハ
ナバチの分布は縮小していると推定されました。トラマルハナバチの
生息に適した主な環境は、花いっぱいの中里山環境です。里山における
樹林の管理放棄が分布縮小の一因なのかもしれません。このかわい
らしい生きもののことを知ること、課題多き里山に想いを馳せる
ヒトが少しでも増えてくれるとうれしいと思います。



正面から見たトラマルハナバチのお顔

棚田博士 は 今日も行く!

中島峰広の
全国棚田行脚

霞ヶ城(二本松城)に隣接する棚田

福島県二本松市郭内・二伊滝



なかしま みねひろ
中島 峰広 (棚田博士)

早稲田大学名誉教授。学術博士。NPO
法人棚田ネットワーク名誉代表。全国棚
田(千枚田)連絡協議会理事、棚田サミッ
ト開催地選定委員会委員長。1933年
宮崎県生まれ。早稲田大学教育学部地
歴科卒。2004年まで早稲田大学教育
学部教授。著書に『日本の棚田—保全へ
の取り組み』『百選の棚田を歩く』『続・百
選の棚田を歩く』『棚田 その守り人』(以
上、古今書院)。現在、百選外の棚田に
ついての執筆準備のため全国行脚中。



西谷棚田全景

二本松市は、県を三分する呼称である「浜通り・中通り・会津」のうち中通りにあり、北に福島市、南に郡山市を配し、安達太良山の東麓に位置している。田園都市の雰囲気を持ち、毎年10月に行われる二本松提灯祭や菊人形展は全国的に知られたイベント。西谷棚田は、「つなぐ棚田遺産」として市内で2か所選ばれたうちのひとつ、二本松城(霞ヶ城)の西側に隣接し、古刹龍泉寺の門前に広がっている。

2023年7月上旬、二本松市西谷の棚田を訪ねた。東北新幹線の「やまびこ」に乗車、郡山駅で普通列車に乗り換え、目的地の二本松駅で下車した。西谷は駅から直線距離で700mの地点にある。車ならば駅前から西へ進み、最初

の信号を右折、直進して2つ目の信号を左折、商店街のなかをしばらく走り、大隣寺入口の交差点を右折、曲がりくねった坂道を登って行けば龍泉寺の門前、西谷の棚田に到着する。

3ヘクタールの 小さくまとまった棚田

棚田は、周回道路に囲まれた楕円状の窪地に広がっている。農水省の個票によれば、面積3・0ヘクタール、枚数89枚、法面土坡、傾斜10分の1とあり、小さくまとまった団地である。棚田はおおよそ窪地の南面、西面、中央面に分けることができる。南面の部分は広さが2・3ヘクタール、土坡の高さは1・2メートルほどであるが、多くは植え付けされておらず、草刈りのみ行われていた。

西面は小さいもので1ヘクタール程度、大きいものは6ヘクタールほどの広さがあり、まちまちであるが、耕作はされている。土坡の高さは1・3メートルほどであるが、1・2メートルのものが多く。中央部上段の6枚は耕作されており、広さが1・6メートルと大小があり、土坡の高さは0・5メートル・0・6メートル。最も美しく見えるのが中段の4枚で耕作されており、広さが5・6メートル、土坡の高さは1・2メートルはある、それより下の数枚は耕作されておらず、草刈りのみ行われていた。

棚田を取り巻く周回道路を上り詰めた最高所からは、眼下に西谷

の棚田が広がり一望できる。イネはコンバインで収穫されず、バインダーで刈り取り、棒掛けにして乾燥させるそうだ。目線を上げると智恵子が見た安達太良連峰の和尚山・乳首山・鉄山・箕輪山などを遠望することができるとだが、当日は残念ながらはっきりとは見えなかった。

兼業農家から専業農家へ

現地では西谷棚田保存会会長の渡辺久司さんと庶務・会計担当の渡辺勝則さん、二人の棚田守り人にお会いした。久司さんは73歳奥さんを昨年亡くし、現在は福島

県信用保証協会に勤める息子さんの家族と同居、毎日午後は孫たちの習い事の送迎で忙しいそうだった。福島農畜高校の農業科を卒業、同時に二本松市役所に入庁、42年間勤めた。この間、農政課長などを歴任、最後は部長相当の会計管理者を務めて退職した。

一方、役所に入庁と同時に兼業農家となり、父親が病弱だったので農繁期には朝5時に起床、2時間から2時間半ほど農作業をこなしてから出勤した。もともと昭和50年ころまでは米作よりも60坪の桑畑を活用した養蚕が重要な収入源で、母親や姉、妻が中心になっ

て年に5蚕まで行い、6000、7000ほど出荷していたそうだった。現在は20坪の棚田4枚をトラクター13馬力、歩行型2条植え田植機、バインダーを駆使して耕作しており、棒掛けにして乾燥させるというから、杭掛けの隊列が出来る頃、もう一度見に来なければと思った。

庶務・会計担当の勝則さんは69歳、娘さん2人は巣立ち妻と二人だけの世帯。地元の高校卒業後、埼玉県川口市内のゴルフ器具販売店に就職、5年間販売店で勤めた後帰郷、地元のゴルフ場勤務に変わり、同時に兼業農家になった。

61歳でゴルフ場を退職した後、弁護士の手を4年間務め、その後は形式的には専業農家になった。しかし、父親が昨年亡くなったが、70歳過ぎまで働いていたので、農業は手伝う程度で終わったという。

桑畑も40坪程度所有し、最盛時には3000ほど出荷していた。水田は70坪所有していたが、かなり早い段階から縮小し、現在は約10坪を耕作するにすぎない。従って所有する農機具類も耕耘機と歩行型2条刈バインダーを所有するのみで、刈り取った稲束を棒掛けにして乾燥させているそうだった。



1:土坡の棚田。高さ2m前後／2:棚田整備隊の草刈り作業／3:米づくり観察用の田んぼ／4:「西谷棚田米づくり教室」の看板

地元で就職しながら 後を継ぐ長男

訪問した当日、棚田では多面的機能支払事業の一環として、老人会を中心とした「棚田整備隊」のメンバー10名前後が花壇の草刈り作業を行っていた。棚田に到着したのが9時頃、龍泉寺の本堂で聞き込みを行い、再び棚田に戻ったの

が11時過ぎ、その時には整備隊の姿はなかった。3時間弱の作業だったと思われる。

最後にまとめると、二本松市西谷の場合も、これまでみてきた多くの棚田地域と同様、後継ぎの長男が地元の役所や企業に就職し、親の農作業を手伝い、親が亡くなつてからは全面的に農作業も引き継ぐ兼業農家になって、棚田を耕作

してきたというのが多くの事例であった。ただし、親が行う農作業を手伝わなかった場合、親が農作業から引退すると同時に脱農することが多いようだ。今更若い者に農作業を教わることは出来ないというのがその理由のようである。



写真左：渡辺勝則さん、右：渡辺久司さん



西谷棚田の周辺環境がよくわかる看板

棚田へのアクセス



【公共交通】JR東北本線・二本松駅前からタクシー利用で棚田まで約7分

【自動車】東北自動車道・二本松ICより県道355号に入り、大隣寺交差点経由で北上。ICから2km

棚田に導かれ

新潟県佐渡市
服部 謙次

『～棚田の生きものたち』



生きもの調査の様子

日本海に浮かぶ島、佐渡。この島の名前を聞いて何を思い浮かべますか？金山？トキ？島外から人が来ると私はまず棚田へ案内します。山から海に向かって広がる卓越した棚田の景観は多くの人を魅了します。佐渡は「美しい棚田の島」ともいえます。

私はかつて農業の技術屋として生産現場を歩いていました。その時に感じたことは、美しい棚田がある地域には大抵すばらしい農家があり、同時にそこにはカエルやイモリ、ヤゴなど多様な生きものを育む豊かな環境があるということです。棚田の美しさも生きものたちの命も農の営みがあるからこそだと思います。

棚田も生きものも両方好きな私は各地の棚田に張り付いて生きものの写真を撮って資料にし、地域ごとに『～棚田の生きものたち』のシリーズ物として紹介してきました。この酔狂な取組も最近は注目する人が増え、SNSで情報発信をしていると意外な所から応援の声や、時には生きもの調査の講師依頼をもらうようになりました。

全国の棚田でも田んぼの生きものに注目してほしいです。棚田で行われる田植えなどの体験・交流は、人（米を食べる人・育てる人）と作物（食べ物）という2者の関係から成り立ちます。生きもの調査ではそこに命・環境といった3つ目の要素が加わり、これまでになかった新しい発見や感動が生まれます。棚田の歴史の重みや未来につなげる意義を地域の中と外の人の双方が実感し、活動の自信につなげられます。みんなで素朴に楽しめるというのも魅力です。

ある時、棚田ファンには不思議と生きもの好きが多いことに気づきました。棚田と生きもの。一見あまり関係の無いもののようですが、その感性をさかのぼっていくと同じ源流にたどりつくのかもしれません。

棚田で虫取り？よくある自然観察？全然違えます。百聞は一見にしかず。ぜひ生きもの調査に挑戦してみてください。きっと生きものたちも棚田で待っています。

読者の
Best Shot!

北庄棚田 岡山県久米南町
遊民宿・旅のあしあと 来栖 昌子

岡山県のほぼ真ん中に位置する久米南町にある北庄棚田は1999年7月に日本の棚田百選に認定されました。

日本の原風景あふれる久米南町に、北庄棚田は面積日本一の棚田として、谷、尾根筋に広がります。

水面鏡となる初夏、真夏の青々とした水田、あぜ道に彼岸花の咲くころ黄金色に揺れる稲穂。美しい景観の棚田を維持するため、次世代へ伝えるための支援活動（田植え、稲刈り、草刈り、祭り）も県内や県外からの参加もあり行われています。四季折々の表情を魅せる北庄棚田へどうぞお越し下さい。



読者のひろば



読者の声募集！

「こんな活動をしています」「こんなことやります」という皆さんの声を編集部までお寄せください！「要望・感想やご質問でもOK！」（声800字まで、レポート400字まで。写真も添えて）
〒160-0003 東京都新宿区西新宿7-1-1ハーバ
トーションハイム新宿七〇四号「棚田に吹く風 読者のひろば」宛
メールでも受け付けています ↓ hensyuu@tanada.or.jp

棚田ネットワーク「ミニ講演会」雑感

事務局 畦野花世

毎年お馴染みの、総会後のミニ講演会。今年は①「地^じじりと棚田」中島峰広名誉代表、②「白米千枚田からの報告」白米千枚田愛耕会広報担当・白尾真紀子さん。

①「地^じじりと棚田」

地^じじりと棚田について初めてちゃんと話を聞いたのは、今から25年も前、連続棚田講座での秋本さんの卒論をもとにした講演。耕作されなくなる↓乾いて田面にクラックが入る↓クラックが盤まで到達し、さらに深くなる↓大雨が降るとそこから水が入る↓沁る、という理屈だった。

次の理屈は中島先生による「棚田は地^じじり跡地の土地利用である」という話。私の理解はそこではぼしまっている。今日は小出博氏による地質学的な分析の話もあったのに。もう少しちゃんと勉強しないといけないかなあ。

②「白米千枚田からの報告」

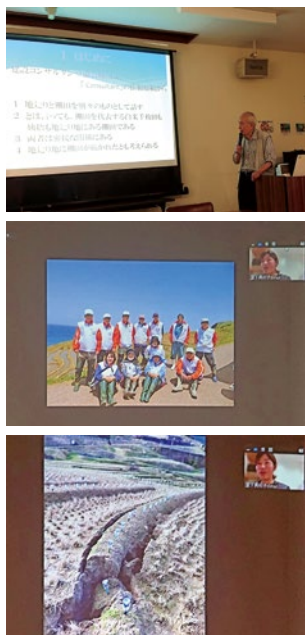
現地からリモートで報告という初の試み。機器の扱いや電波状況などに苦闘しながら何とか実現した。たくさん現場写真を見ながら、そこに写っていない現地の空気を思った。

報告の中では「千枚田の復旧の仕方」という点が一番気になった。地元の業者に修復作業を依頼することになっているが、千枚田を耕す農家と業者とでは修復の方法が違う、というのだ。自分たちでやりたいのだけれど、お金を出すのは行政なので、調整が難しいという。

中越震災の後、山古志村の見学会に参加した時に聞いた話も同様だった。行政はどうしても、年月と予算（金額）に縛られる。悪意はないが、どうしてもそうになってしまう、と。

千枚田は生きているし、耕す人間も生きている。その土地その人に合った方法で、これからも末永く繋いでいってほしい、と心から思った。

※会場で募った寄付を、後日愛耕会の口座宛にお送りしました。



編集部イチオシ! BOOK & MOVIE



森と棚田で考えた



沢畑 享 著
1,760円(税込)
不知火書房
2005年12月

今からふた昔前、中島名誉代表に棚田に造詣深い方々を紹介頂きそれぞれの著作を購入して乱読した。その中でちよつと気になったのが掲載の本である。著者は地元熊本の水俣久木野にある愛林館という村おこし拠点施設が公募した館長に選ばれ、まさに森と棚田の中にどつぷりといつかり陣頭に立つて熱い思いを実践されている。

本書は新聞雑誌業界紙関連団体等への寄稿を「一章・森を育てる」「二章・美しい棚田の私」「三章・山里通信」「四章・水俣から見える社会」「五章・エコロジカル・アジア」という章立てで編集したものである。

愛林館の事業は(1)身土?不二の食ビジネス(2)環境教育(3)各種イベントの三本柱となっている。

経済的には全く不合理な稲作を、ある倫理観で続けているサラリーマン農家の苦勞を知らないマチの人に「棚田は美しいですね」と言われても素直に喜べないと思う。一方でそれを解ってくれる人が居ると嬉しいし元気がでるそうぞだ。

4月末から熊本日日新聞で著者の自伝が連載中。

第51回

棚田俳壇

令和6年

誌上添削

稲の波向うに母の居るやうな
■ヒント
「やうな」ではなく現実
【次回募集は8月末日】解答例は下記

大へしうと五七五

牛ゲツプ 暑さの日々を覚悟して
墓まいりふるさと訛り懐かしみ
タラの芽の土産貰つていざ渋滞
田植え済み雀も燕も見えぬ夏
おにぎりの立ち食い流行る rebound
稲をみてこれが米にと？ 三四郎(漱石逸話)
選挙する 選挙せぬ国懲らしめる
自国第一 南北戦争の前夜なり
調布市 高木宏明

水入りて蘇りし学校田
山の田や 水不足なり心配す
耕して 水来たりて鳥集まる
山合いの沢続きに 古田有り
新潟市 田入絵人

どくだみや茂る姿に 梅雨をみる
童来て 今日はどうかとビワ袋
地割れ田で 集中降雨 願う人
山の田は 稲アワヒエの 丈くらべ
所沢市 上久保郁夫



芋の苗 慣れないままに 植え付ける
里山に ウグイスの声 響く昼
青田見て 自分の気持ち 切り替える
草刈りは 戦の如く 鎌振るう
豊島区 小川順子
ウオーキング 桑の実摘んで 一休み
薫風に 歩く動作も 軽やかに
房総の 森も萌え立つ 照葉樹
腰叩き いつまでできる 田植えかな
取手市 杉山行男

雨上がり 田植え機 進み 筋みどり
麦秋と 居並ぶ 水田 鳥遊ぶ
誘われて 新しき 春友の家
花花花 心に残るは 重草
写) 鼻月雨止んで 雲吐く 伊吹山
浜松市 一露



張の勢みろとにいた田んぼをみよ：陽景雄

棚田ネットスタッフの
つぶやき
(輪番制)

今回のつぶやき人
事務局
TokoMatsu

日経新聞の報道によりますと、「コメの卸会社が取引する価格は5月以降、代表的な新潟産コシヒカリが前年同期比で6割高と、約13年ぶりの高値をつけた。8割高の銘柄も登場。2023年の猛暑でコメの品質が低下したことで、流通量が減ると同時にインバウンド（訪日外国人）回復で需要が膨らみ、品薄感が強まった」とのこと。これでお米農家さんの収入増につながれば、昨年より高い価格のお米もギリギリ許容範囲かなとも思えますが、事はそれほど簡単ではないようです。

化学肥料や燃料の価格高騰等により経営は大変なこと、高齢農家のリタイアと担い手不足による生産力の急速な低下等も背景にあり、せっかくのお米の家庭用需要の回復（長期低下より反転の兆し）もお米の生産の担い手が不足するようでは、市場の期待に応えていくのは容易ではありません。既に事業用では価格の上がった日本のお米を避けて輸入米の取扱高が急増しているようです。

日本のお米にとっても、棚田の保全にしても大切なのは生産者の確保、担い手がいてこそだと思います。今後迫りくる「もつ来ている」あらゆる産業・分野での人材争奪戦において、ハードルの高い専業農家でなくとも、大規模農家を目指さなくても半農半Xや兼業農家、小規模農家等の多様な経営形態でお米を作ろうと志す老若男女をいかに増やしていくのかを、官民で実践していく時期にきています。

岐阜県恵那市

棚田ビオトープ プロジェクト

かえるの卵を探そう!と田植え



「第17回かえるの卵を探そう!」は七十二候の雀始巢（すずめはじめてすくう）頃、3月20日（水／春分の日）に開催し、17名（大人7名、中学生2名、小学生4名、幼稚園以下4名）の参加がありました。早春に卵を産むヤマアカガエルの卵塊を探しながら、春のウォーキングとなりました。今年の結果を発表しますと2月24日（0個）、3月11日（3個）、20日（0個）、31日（54個）、4月6日（26個）、合計83個でした。例年、100個程度ですので、少ないかもしれません。

棚田ビオトープの田植えは七十二候の葭始生（あしはじめてしょうず）頃、5月24日（金）10:30から岐阜県立国際園芸アカデミーの学生など20名により田植えをしました。巨石が真ん中にある中の田で田植えをしました。人数も多いのですぐに終わりましたが、上の田は昼食の時間となり時間切れとなりました。皆ですることは出来ませんでした。参加者の昼食時間に私がさっと田植えをしました。20株ほどの小さな棚田です。（相田明）

静岡県松崎町

石部棚田で昔ながらの米づくり

代かき→畦塗り→田植えまで



4月13日にボランティア8名で代かき作業、4月29日に10名で畦付け・畦塗り作業、5月18・19日に田植え体験イベントを開催。新規で参加の2組といつもの有志のみなさんで総勢15名ほどが参加し賑やかな田植えとなりました。

1日目は晴天で気持ちのいい初夏の陽気。2日目は少し雨がばらつく感じもありましたが、大きく崩れることはなく、無事作業を終えることができました。初めて田植えを経験した男子大学生。就活中だそうです。が「農」や「地域」に関わる仕事につきたいとのことで頼もしいです。最初は田植え長靴を履きましたが、裸足でやりたいという小学生の女の子は、お父さんと一緒に一生懸命植えてくれました。おたまじゃくしやあめんぼを見つけて大興奮でした。参加の皆さん、ありがとうございました！次回、7月13・14日と8月31日・9月1日に草刈り・草刈りのボランティア作業を予定しています。（久野大輔）

千葉県鴨川市

川代だより（田植え編）

2024年も川代棚田は元気です



川代プロジェクトは、スタッフ体制が諸般の事情により支障が生じるため、今年度は残念ながら参加を見送ることとなりましたが、川代棚田でのオーナー制は元気に続けられています。

今年の田植えは、5月3日に行われ、当ネットワークからは2名参加し晴天の中新緑の空気を楽しんできました。今年は、晴天に恵まれ鯉のぼりが舞う中、オーナーは41組221名が参加し、加えて城西国際大学福祉総合学部から17名が参加するなどにぎやかな田植えとなりました。川代はオーナーに加えて地元の皆さんが多く参加され一生懸命指導してくれるのが素晴らしいと感じます。今回もネットワークの2名のため田んぼを用意していただき、今後の草刈りや稲刈りについても快く対応してくれるとのこと。棚田を巡る状況は厳しいものがありますが、庄司代表はじめ、地元の皆さんは集落一丸となって活性化に取り組んでいます。（今後の日程）草刈り:6月2日、7月7日、8月25日、稲刈り:9月1日、脱穀:9月8日、収穫祭:10月6日（杉山行男・小川順子）

第29回

全国棚田(千枚田)サミット in 上田

会場: 上田市交流文化芸術センター(サントミュージゼ) ほか

2024
10/17(木)・18(金)



棚田CAMP

カカワレル棚田 ～「ずく」を集めて未来につなぐ～

※「ずく」は「やる気」や「根気」を意味する長野県の方言です

◀稲倉の棚田

主催: 全国棚田(千枚田)連絡協議会

お問い合わせ▶ 第29回全国棚田(千枚田)サミット実行委員会 事務局: 上田市農業政策課
〒386-8601 長野県上田市大手一丁目11番16号 TEL. 0268-21-0053 FAX. 0268-23-5982

参加者募集は
7月上旬に開始!

棚田サミット
ホームページ▶



わたしたちと「棚田の応援団」やりませんか!

棚田ネットワークは「棚田の保全に協力したい!」という会員によって自主的に運営されているNPOです。消えゆく美しい「棚田」をどのように保全していくことができるのでしょうか?一緒に考えませんか?ぜひ、私たちと棚田の応援団になりましょう!

会員に
なろう!

年会費

私たちは、会報誌「棚田に吹く風(年4回)」やホームページで豊富な棚田情報を発信しています。会員になりこれらの活動に参加してみませんか?

○個人会員

維持会員	1口1万円(1口以上)
一般会員	4,000円
応援会員	3,000円
学生会員	2,000円

法人会員を募集しています!

私たちは、棚田を守るため、農山村の人々と都市住民双方の協力のもとに様々なプログラムを企画・運営しています。これらの社会貢献活動に賛同し、ご支援いただける企業・団体・事業主様を募集しています。詳細はお問い合わせ下さい。

年会費

○法人会員(賛助会員)
1口3万円(1口以上)

編集部から

石部棚田に毎日通い桜葉栽培に精を出す元気印のお母さんがいる。毎回、私達の田んぼの前を通るたびにアドバイスをくれるのだが、畦切りの時に鍬の入れ方を教えてくれた。私達は通常鍬を垂直に振り下ろし、削ぎ落ちた土を今度は鍬で横に掻き出して畦際に水の通りを作るのだが、ここには縦の動きと横の動きという二手間がかかっていることになるのである。お母さん曰く、鍬を少し斜めに振り下ろすと、そこに回転運動が加わって鍬に土が乗り、その遠心力のままに土を掻き出せて、一手間でも済み効率が良い体力も温存されるというのだ。まさに目から鱗。12年経ってもまだまだ学ぶことがたくさんあります。



2024年 夏号 Vol.132

発行



認定NPO法人

棚田ネットワーク

〒160-0023
東京都新宿区西新宿7-18-16トーションハイム新宿704号
Tel / Fax 03-5386-4001
e-mail: info@tanada.or.jp URL: www.tanada.or.jp
郵便振替口座: 00100-7-151565

ホームページの姿を見よう!

棚田ネットのWebサイトも
見てみてください!



<https://www.tanada.or.jp>